



南スーダンの平和構築と日本の役割 －国際平和協力と人道・開発支援の 現場で考えたこと－

前駐南スーダン大使 紀谷昌彦
2018年1月9日
関西学院大学 国連・外交統括センター講演会

全体の構成

1. はじめに：今なぜ南スーダンを考えるのか？
2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？
3. 日本の役割：何ができるのか？
4. おわりに：これから何をすべきか？

1. はじめに：今なぜ南スーダンを考えるのか？

- 自衛隊部隊の国連 P K O 派遣，新任務付与，撤収等が広く報道

→我が国の国際平和協力のあり方が課題に

- 世界最大規模の人道危機（避難民発生等）が継続，政治プロセスに国際社会が関与

→我が国の人道・開発支援，政治プロセスへの関与のあり方も課題に



(写真提供：UNMISS)



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？ (1) 経緯

- 1954年～1972年，
1983年～2005年
第一次・第二次内戦
- 2005年
包括和平合意（CPA）
- 2011年7月
南スーダン独立
- 2013年12月～
2015年8月
政治危機発生～衝突解決合意
- 2016年4月
国民統一暫定政府設立
- 2016年7月～
2017年12月 ジュバ衝突
発生（衝突解決合意実施困難
に）～敵対行為停止合意



((c) Kevin Carter/Sygma)



(写真提供：UNMISS)

2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？ (2) 要因

- 政治：指導者間，部族間の根深い相互不信
- 治安：治安組織の未整備，小型武器の拡散
- 行政：行財政諸制度の未整備，支援への依存
- 経済・社会：長年の内戦による伝統的秩序の脆弱化



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？ (3) 課題

- 南スーダン自身が主導し，国際社会の支援が得られる平和の実現
- ↑
- ① 国内の和解（南スーダン政府と反政府諸勢力）
 - ② 国際社会との協調（南スーダン政府と国際社会，特に米国）
 - ③ 経済の安定（南スーダン政府と援助国・機関，特に I M F）



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？ (4) 国際社会の取組

- ▶ 様々なアクターが関与・協力：
I G A D (周辺諸国)
A U, 国連, トロイカ (米・英・ノルウェー), E U, 中国, 日本…



- ▶ I G A D主導で、南スーダン諸勢力参加のもと、衝突解決合意実施のためのハイレベル再活性化フォーラムを開始

→ 2017年6月にI G A D首脳会合で決定

→ 同年12月にアディスアベバで第1回会合開催，敵対行為停止合意署名



3. 日本の役割：何ができるのか？ (1) 自衛隊①

◎ 2012年1月から17年5月まで施設部隊を派遣，現在も司令部要員を派遣中

- ▶ P K O (U N M I S S)の一員として質の高い成果

- 宿営地整備
- 道路整備 等



3. 日本の役割：何ができるのか？ (1) 自衛隊②

- 自衛隊の高い能力と規律で、国連P K O内のモラル向上に貢献



- 自衛隊の高い能力と規律を、国連P K Oに参加する軍人・文民を通じて広く発信する機会



3. 日本の役割：何ができるのか？ (1) 自衛隊③

- 自衛隊は住民目線のマルチタレント集団，文化行事で積極的に交流



- JICAやNGO，国際機関の邦人職員とともに，オールジャパンの国際協力に参画



3. 日本の役割：何ができるのか？ (2) J I C A ①

➤インフラ事業に対する高い評価

- ナイル架橋
- ジュバ水供給



3. 日本の役割：何ができるのか？ (2) J I C A ②

➤制度・能力構築・人材育成に
対する高い評価

- 包括的農業マスタープラン
- A B E イニシアティブ



3. 日本の役割：何ができるのか？ (2) JICA③

- 新たな分野への取組：スポーツを通じた平和構築支援
 - － 国民体育大会の開催
 - － オリンピックへの参加



(写真提供：JICA)

3. 日本の役割：何ができるのか？ (3) 国際機関との連携①

- 人道から開発への移行，人間の安全保障に重点
 - － 回復・安定化支援 (UNDP 他)
 - － ミンカマン河川港整備 (UNOPS)



3. 日本の役割：何ができるのか？ (3) 国際機関との連携②

➤ 制度構築・能力構築に重点

- 献血制度構築支援 (WHO)
- リーダーシップ・マネジメント研修 (UNITAR広島)



(写真提供：UNITAR広島)

3. 日本の役割：何ができるのか？ (3) 国際機関との連携③

➤ 国際機関邦人職員も前線で活躍，日本政府も側面支援

- IOM (国境管理)
- UNHCR (難民キャンプ)



3. 日本の役割：何ができるのか？ (3) 国際機関との連携④

- 国際赤十字委員会（ICRC）による最前線の活動でも日本人が活躍，日本政府も側面支援
 - ICRC邦人職員
 - 日本赤十字からの派遣要員



(©ICRC/Layal Horanieh)

3. 日本の役割：何ができるのか？ (4) NGO①

- 治安の悪化により，ジャパン・プラットフォームは，出張ベースの支援から遠隔支援へ移行
 - 現地NGOの能力強化 (PWJ, JCCP)
 - 国際NGO内の連携 (WVJ)



(写真提供：WVJ)

3. 日本の役割：何ができるのか？ (4) NGO②

➤ 供与式では自衛隊とも連携



➤ 大使館は、現地NGOを対象に草の根・人間の安全無償を供与



3. 日本の役割：何ができるのか？ (5) 政治プロセス

➤ 国連安保理

– 2016年～17年は国連安保理非常任理事国

– 議論に積極的に貢献，2016年末，制裁決議案に棄権



(写真提供：国連)

➤ 国民対話支援

– 国民対話が包摂的となるよう，国連と緊密に連携しつつ実施

– 日本は主要ドナーとして，国民対話の推進に大きな役割



4. おわりに：これから何をすべきか？

➤全般・共通点

－ 自立・自助努力を重視する主要国である日本が関与し，内外の関係者を橋渡しする意義大，「使命」

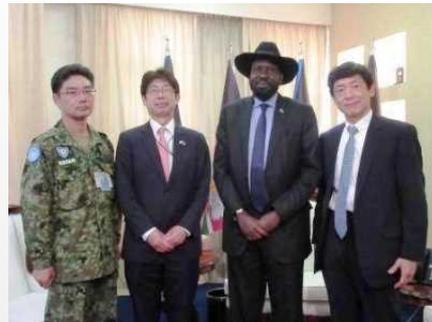


➤国際平和協力

－ 今回の大きな成果，高い評価を踏まえ，今後のあり方を検討

➤人道・開発支援

－ 人道から開発への移行など日本型アプローチを強化，スケールアップ



➤政治プロセス

－ 各種支援を通じた日本への信頼を生かして，独自の貢献が可能

(講師連絡先)

外務省中東アフリカ局アフリカ部・

国際協力局参事官，

TICAD担当大使

紀谷昌彦 (きや・まさひこ)

03-5501-8000 (内線2760)

masahiko.kiya@mofa.go.jp

